

京労発基 0621 第 3 号
平成 29 年 6 月 21 日

建設業労働災害防止協会
京都府支部長 殿

京都労働局長



労働災害防止対策の徹底について(緊急要請)

平素より労働災害の防止をはじめ労働行政の推進に格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、京都府内の本年 5 月末日現在の全産業における労働災害による死者数は、すでに前年の発生件数に並ぶ 8 人となっており、休業 4 日以上之死傷者数についても前年同期に比べて 16.5%の増加となっています。

また、第 12 次労働災害防止対策推進計画（以下、「12 次防」という。）で業種横断的な重点課題としてその防止に取り組んでいる「転倒災害」は、前年同期に比べて 32.6%の大幅増となっています。

このため、京都労働局では、12 次防最終年である本年において、死亡災害に歯止めをかけることはもとより、死傷災害についても、増加している転倒災害、腰痛等の防止対策をさらに推進してまいります。

つきましては、貴殿におかれましても会員等関係事業者に対して、以下の労働災害防止に向けた取組みを強化していただきますよう、要請いたします。

1. 経営トップの参加の下に職場の安全パトロールを実施するなど、職場内における安全衛生活動の総点検を実施すること
2. 転倒災害を防止するため、転倒災害防止のためのチェックリストを活用するなどして、危険要因の洗い出しを行い、転倒災害防止対策の実施を図ること
3. 高齢者の災害が多発していることから、特に高齢者の労働環境及び安全衛生対策に配慮すること

労働災害多発傾向に！！

安全衛生活動の総点検を実施しましょう！

京都労働局

京都府内の労働災害は、平成29年5月末速報値（以下「速報値」という。）において、死亡者数が8人と前年同期4人と比較して4人（100％）増加、休業4日以上之死傷者数が747人と前年同期に比較して106人（16.5％）増加しています。



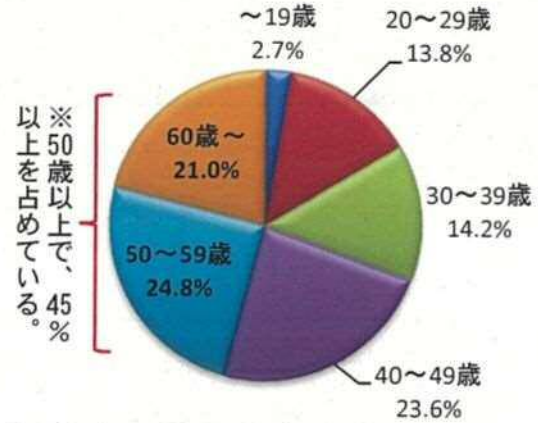
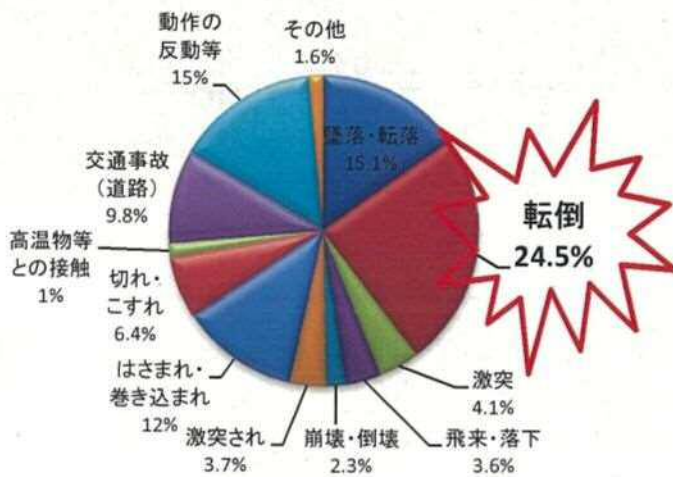
業種別労働災害発生件数（速報値）

業種	休業4日以上之死傷災害 (平成29年5月末現在 速報値)				死亡災害 (平成29年5月末現在 速報値)		
	29年	28年	対前年 増減	増減率 (%)	29年	28年	対前年 増減
全産業	747	641	106	16.5	8	4	4
製造業	145	128	17	13.3	2		2
鉱業	4	2	2	100.0			
建設業	97	77	20	26.0	5	2	3
運輸業	145	132	13	9.8	1		1
農林・畜産・水産業	24	22	2	9.1		1	-1
商業	91	85	6	7.1			
金融・広告業	7	5	2	40.0			
保健衛生業	78	62	16	25.8			
接客娯楽業	50	44	6	13.6		1	-1
清掃・と畜業	47	33	14	42.4			
その他	59	51	8	15.7			

※ 休業4日以上之死傷災害数は労働者死傷病報告による。死亡災害数は死亡災害報告による。



事故の型別別労働災害発生件数（速報値）



年齢別別労働災害発生件数（速報値）

事故の型別では、第12次労働災害防止対策推進計画で業種横断的な重点課題としている「転倒災害」が全業種合計で183人と昨年より45人（32.6%）増加しており、引き続き転倒災害防止対策を取組む必要があります。

京都労働局では、厚生労働省及び災害防止団体で推進している「STOP！転倒災害プロジェクト」とともに、各社で取り組まれている転倒災害防止対策の具体的な事例収集を行い、ホームページ等により広く周知を図っているところです。

各社におかれましては、転倒災害防止のためのチェックリスト等を活用するなどして転倒災害防止対策の実施及び安全衛生活動の実施状況の総点検を行っていただきますようお願いいたします。

平成29年 死亡災害一覧（速報）

No.	災害発生時	業種	起因物	事故の型	被災者概要 事業場規模	災害の概要
1 2	1月 13時	建設業 (土地整理土木工事業)	掘削等 (地山、岩石)	崩壊、倒壊	男50代 男10代 10～29人	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレード等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。
3	1月 21時	製造業 (染色整理業)	一般動力機械 (ロール機（印刷ロール機を除く）)	はさまれ、巻き込まれ	男50代 30～49人	布加工機のシリンダーロール（直径63cm）の表面の調整のため、被災者はロールを停止せずにクエン酸を浸み込ませたウェスを使用して、ロールに塗布しようとしていたところ、下部のシリンダーロールとゴムロール（直径24cm）の間に右腕を巻き込まれた。
4	3月 6時	運輸交通業 (一般貨物自動車運送業)	動力運搬機 (トラック)	交通事故 (道路)	男20代 30～49人	中型トラックを運転中、高速道路走行車線の渋滞で停車していた前方の軽乗用車に接触し、その後、軽自動車を含めて4台前の大型トラックに追突した。
5	3月 9時	建設業 (その他の建築工事業)	仮設物、建築物等 (屋根、はり、もや、けた、合掌)	墜落、転落	男40代 1～9人	工場屋根の葺替工事中、被災者はスレート屋根を踏み抜き、10.8mの高さから工場の土間（コンクリート）に墜落したものの。
6	5月 14時	建設業 (鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業)	材料 (金属材料)	飛来、落下	男40代 1～9人	鉄骨建方作業を行う為、トラックからレッカーを用いて鉄骨を降ろす作業中、7本あるうちの4本目を降ろすにあたり、トラックの荷台に置かれた鉄骨の上に乗ったところ、当該鉄骨が動いた反動で、被災者はトラックから地面に墜落するとともに当該、鉄骨（0.8t）も被災者の上に落下したものの。
7	5月 7時	製造業 (セメント・同製品製造業)	材料 (その他の材料)	崩壊、倒壊	男40代 1～9人	被災者はフォークリフトを運転し、重量630kgのガードレール土台用のコンクリート2次製品を5段（約280cm）に積み上げた後、フォークリフトを降りて積んだ製品の状態を確認しようとして製品の前に移動したところ、製品が倒壊し、製品とフォークリフトの胴体部分との間に頭を挟まれ死亡したものの。
8	5月 15時	建設業 (鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業)	乗物 (乗用車、バス、バイク)	交通事故 (道路)	男30代 10～29人	建設工事現場で作業を終え、労働者3名が社用車で事業場事務所へ移動中、国道で被災者らが乗る社用車が反対車線にはみ出し、反対車線を走行中のダンプと衝突した。死亡した被災者は後部座席に乗車し、シートベルトをしていなかった。

あなたの職場は大丈夫？

転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート



チェック項目		<input type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果は、いかがでしたか？

問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合しましょう！ 次頁の「見える化」も効果的です!!

まずは、職場内で情報共有

転倒危険場所を見える化しましょう！

転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への共有を図ることが大切です。危険場所に下のステッカーの掲示を行うなど、**転倒の危険を見える化しましょう！**

※下のステッカーは、「STOP！転倒災害プロジェクト」のホームページからもダウンロードできます。

切り取り線

切り取り線

転倒危険！



コメント

2月・6月は重点取組期間です!!

STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。 [STOP! 転倒 検索](#)

事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、プロジェクトの重点取組期間（2月、6月）には、チェックリストを活用した**総点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

転倒災害の特徴

特徴1 転倒災害は最も多い労働災害!

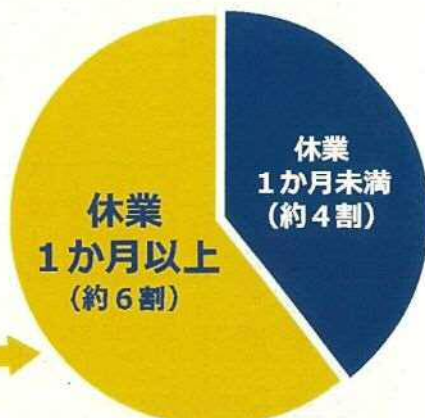
休業4日以上労働災害、約12万件のうち、転倒災害は約**2.6万件**と最も多く発生しています。

特徴2 特に高齢者で多く発生!

高齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では55歳未満の約**3倍**リスクが増加します。

特徴3 休業1か月以上が約6割!

転倒災害による休業期間は約**6割**が**1か月以上**となっています。



「平成27年転倒災害による休業期間の割合」 労働者死傷病報告 (厚生労働省) より作成

転倒災害の主な原因

▶転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか?

滑り	つまずき	踏み外し
<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床が滑りやすい素材である。 床に水や油が飛散している。 ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。 	<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床の凹凸や段差がある。 床に荷物や商品などが放置されている。 	<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。

転倒災害防止対策のポイント

▶転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> 歩行場所に物を放置しない 床面の汚れ (水、油、粉など) を取り除く 床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を持って行動 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 足元が見えにくい状態で作業しない 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した靴の着用 職場の危険マップの作成による危険情報の共有 転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください!
「STOP! 転倒災害プロジェクト」

[STOP! 転倒 検索](#)

(2017.2)

STOP! 転倒災害 プロジェクト